

★「京都らしい設え」の趣旨・目的

京都ならではの付加価値として「京都らしい設え」を施すことにより、日本文化の発信はもとより、京都ならではの魅力を備えた京都市独自のMICE戦略の推進や京都市の伝統産業の振興につなげることを目的とする。

★「京都らしい設え」の実施方針

京都市と公益財団法人国立京都国際会館（以下「財団」という。）が連携して取り組み、多目的ホールの顔ともいえるロビーや控室の「内装」や「調度・備品」に、京都の伝統産業や伝統工芸等をいかした設えを施すことにより具体化を図ることとし、財団が「京都らしい内装」を担い、京都市が「京都らしい調度・備品」の制作を担う。

1 国立京都国際会館における「京都らしい設え」のコンセプトとキーワード

多目的ホールの設計コンセプト

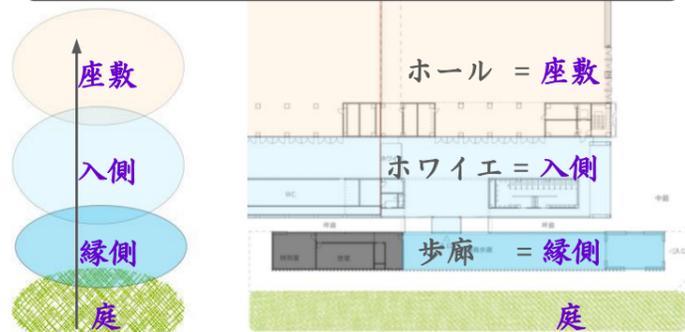
既存建築との調和と革新



豊かな自然環境に協調するデザイン



多様性のある空間構成
～日本建築の場の構成～



相互調和

「京都らしい設え」のコンセプト（3つの柱）

伝統文化の本質・精神を踏まえ、革新を創造する

- 蓄積された技など京都が持つ潜在的な力を理解し、引き出して、新たに創造する。
- 建物自体が持つ構造の美しさをいかす設計を心がける。
- 時とともにその味わいを深めていく材料を用いる。
- メンテナンスがしやすく長期的に美しさを保てるデザインを行う。
- 可変性に配慮することで、いつの時代にも使いやすい建物を目指す。
- 京都の伝統工芸を建築と一体化しつつ、今の時代の新しい表現を創造する。
- 真の「もてなしの心」を表現する場を与える。

自然との共生を体現する

- 周囲の豊かな自然環境や景観を大切に設計を行う。
- 自然とともに暮らしてきた日本人の精神を体現する。
- 自然の力を用いて、快適に過ごせる空間をつくる。

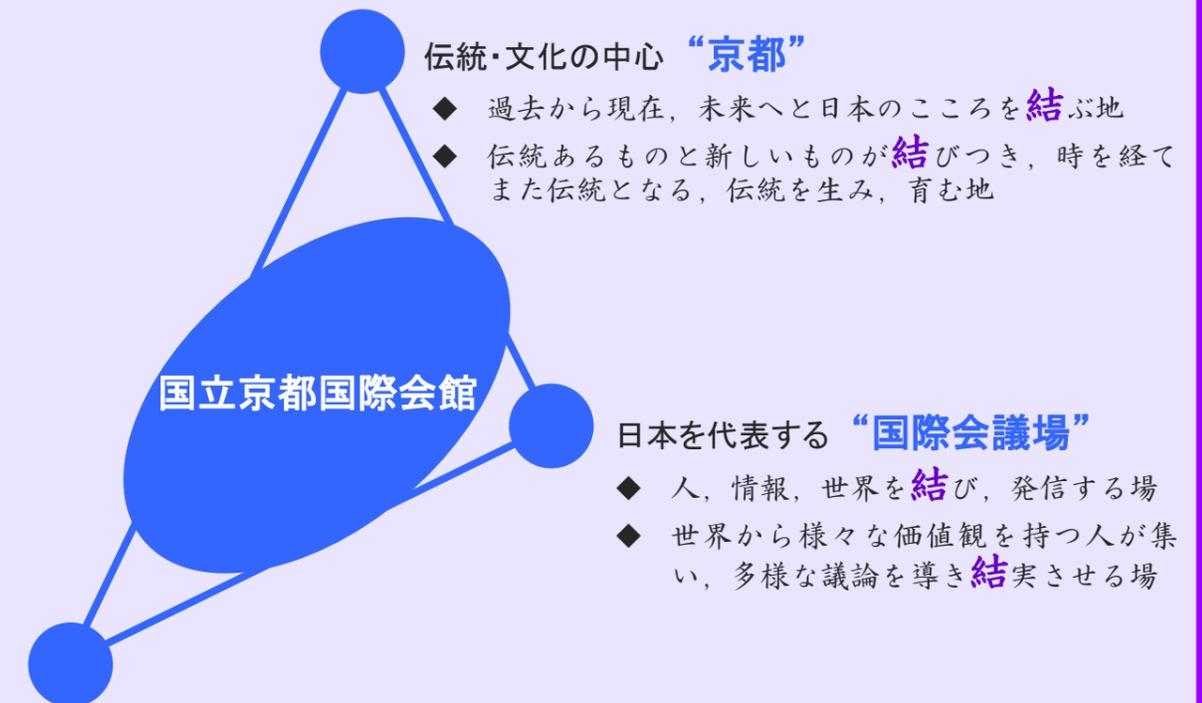
多様性のある豊かな空間を創出する

- 日本建築の場の構成に倣い、外部から内部への場面展開を「庭」→「縁側」→「入側」→「座敷」と捉え、各空間に特徴を与えることで、空間に多様性が生まれ、長期間滞在しても飽きない豊かな空間構成とする。

「京都らしい設え」の素材やデザインを決定するうえでのキーワード

「結—むすぶ—」

“結 = 糸 + 吉” 吉(よ)いものを紐でむすぶ様子を表す



伝統・文化の中心 “京都”

- ◆ 過去から現在、未来へと日本のところを結ぶ地
- ◆ 伝統あるものと新しいものが結びつき、時を経てまた伝統となる、伝統を生み、育む地

日本を代表する “国際会議場”

- ◆ 人、情報、世界を結び、発信する場
- ◆ 世界から様々な価値観を持つ人が集い、多様な議論を導き結実させる場

半世紀を経た風格ある “佇まい”

- ◆ 日本建築の伝統美と国際会議場にふさわしい機能的な平面・立体構成が結びついた造形〔本館〕
- ◆ 比叡山との結びつきを大切に自然に溶け込む形態〔イベントホール〕
- ◆ 半世紀にわたり守られてきた設計思想、築かれた歴史を、これからの50年に向けて結実させたデザイン〔新ホール〕

2 各空間における「京都らしい設え」

① ロビーエリア

エントランスからホールに至るまでのアプローチ空間となる歩廊とホワイエを中心とするパブリックエリア

歩廊 >>> 自然との共生を体現する京都らしさの本質を捉えた現代的な心地良い空間

内部空間と外部空間を「結—むすぶ—」

ホワイエ >>> リズム感のある多様な空間演出と上品で質の高い京都らしさにより予感を楽しむ空間

多様な空間を「結—むすぶ—」

② 控室エリア

賓客の接遇も想定した特別室と、会議や会食にも対応できる控室、専用玄関等で構成されるプライベートエリア

>>> 現代的な建物の特徴をいかし、庭屋一如を追求した特別な和の空間

伝統と現代を「結—むすぶ—」

③ ロビーエリアと控室エリアを取り巻く庭

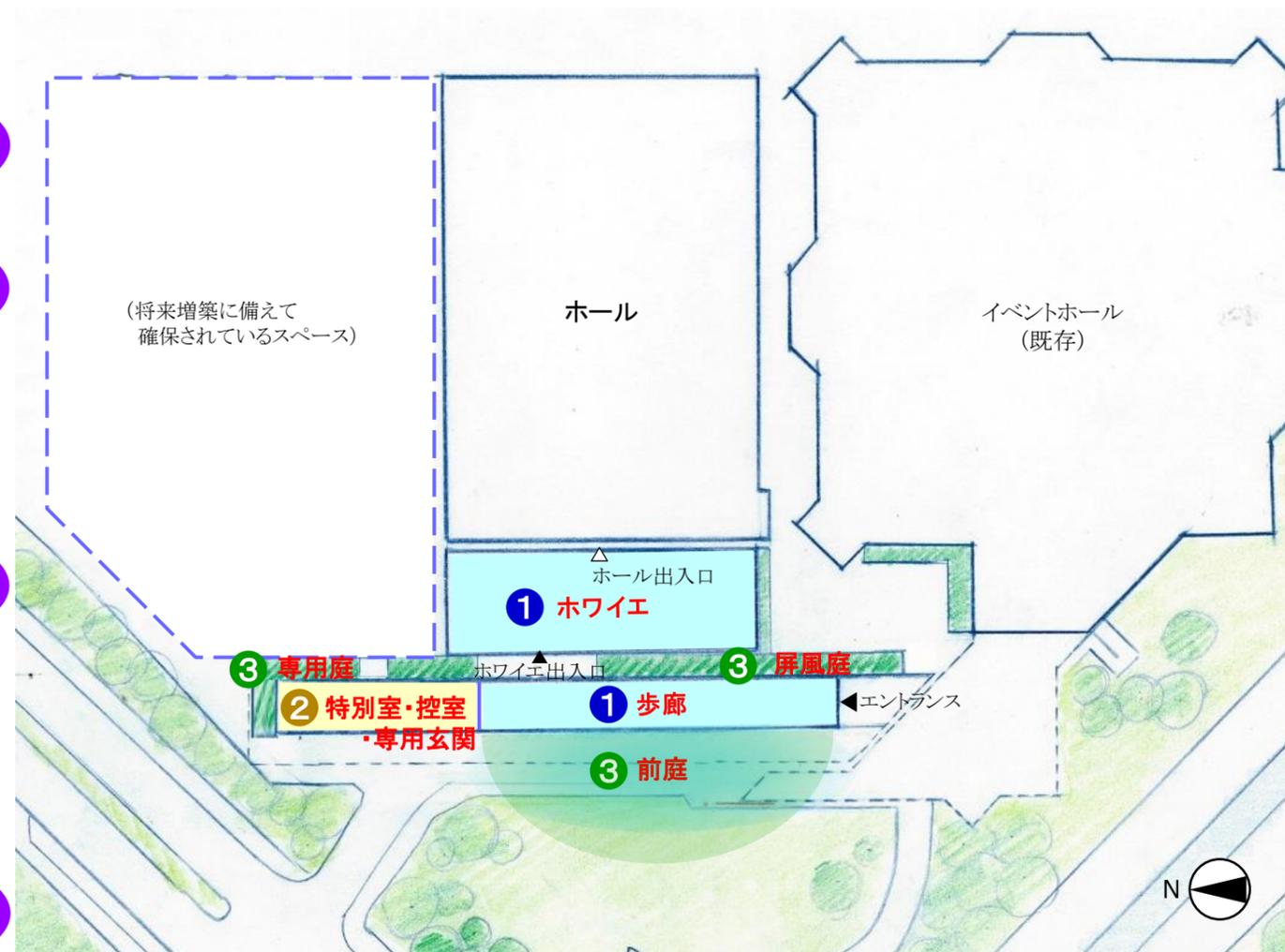
歩廊の両側に広がる前庭と屏風庭、特別室を取り囲む専用庭

前庭 >>> 石と緑による奥行感と新旧の調和により歴史をつなぐ庭

屏風庭 >>> 里山の四季美により自然とつながる庭

専用庭 >>> 内外がつながり客人をもてなす庭

もてなしの心を「結—むすぶ—」



3 「京都らしい調度・備品」の具体化に向けた基本方針

家具類

- ◆ 京都市の伝統産業74品目を駆使し、伝統の美・技・心を伝える。
- ◆ 空間の特性や使われ方を踏まえ、耐久性やメンテナンス性を考慮した、年月の経過と実用に耐え得る、長く愛されるものとする。

>>> 知恵と創意工夫により次代へとつながる、現代に息づく「本物」を目指す

空間特性に応じた伝統産業の取り入れ方のイメージ

① ロビーエリア

>>> 新たな組合せ・解釈による「創造」の設え

② 控室エリア

>>> 趣向を凝らし、粋を集めた「完成」された設え

美術工芸品

- ◆ 新たに制作・購入するだけでなく、財団の所蔵品や京都市美術館等からの借用品の活用を図ることで、季節や会議のテーマ、客人の嗜好等に応じた設えとする。

>>> 心を尽くした設えにより「もてなしの心」を伝える

空間特性に応じた設えのイメージ

① ロビーエリア

歩廊 >>> 移ろい行く時・場・人を結び、導く、「誘い」の設え

② 控室エリア

特別室 >>> 客人に応じてもてなす「特別」な設え

控室 >>> 多様な集いの場に「彩り」を添える設え

専用玄関 >>> 印象的に迎え入れる「顔」となる設え